

SRID キャリア開発塾講師陣プロフィール氏 名：高橋一生



自己紹介：東京在住、ライフワークは、国際協力（地球公共財）および研究・教育である。

1) OECDでは初期、DACにおいてベーシック・ヒューマンニーズなどの担当として、コンセプト作成、それを援助機関共通のものとする作業が中心。その後、事務総長室課長としては国際参謀として冷戦と南北関係の接点に関する作業が中心。南北対話と対東側および対OPECに関し対話とコンセプト作成をつうじて西側のリード役を果たした。

2) 財団ダイレクターとしては冷戦終了直後の世界の混乱に際し、世界のオピニオン・リーダーを結集して「冷戦後の世界のあり方」を提示し、同時に、アジア諸国のシンクタンクの指導者を糾合して「新しいアジア」の方向を打ち出した。両者の各論として世界の流れ（ビジネス、移民、難民）とその課題を21世紀にかけてのチャレンジとして国連に提示。それぞれが一定の機能を果たした。

3) 国際開発センター長として、日本がODAのトップ・ドナーとしての時期（90年代）に、世銀、DAC、UNCTADなどの年次報告書編集長たちを東京に集め、開発課題を提示して協議させ、日本が開発の*アジェンダ・セクター*でもあるという仕掛けを工夫。

4) ICUでは学部、大学院ともに自分の後継者づくりに努力を傾注。すでに第一線で活躍する若者達が出てきている。併任として東京大学、政策研究院大学院大学、国連大学等の客員教授としてもそれぞれの大学の特色を生かした次世代指導者の養成に努めた。それぞれの時代は常に不確実性に満ちている。しかし、ぶれることなく私の場合は常に自分を地球公共財の担い手として位置付け、今も、国際会議および若者支援を行っている。現在、リベラルアーツ21 代表幹事を務め、元SRID会長である。

学歴：資格

1965年 ICU（国際基督教大学）卒業（社会科学科）

1967年 同 修士（国際行政学）

1975年 コロンビア大学 PhD（国際関係論）

職歴

1976－87年、OECD（DACおよび事務総長室）

1987－96年、笹川平和財団（初代プログラム・ダイレクター）

1996－01年、国際高等教育機構（FASID）（国際開発センター長）

2001－08年、ICU 教授